

子午線



令和3年9月1日
9月号
三木市立三木小学校



正しく恐れ、実りある2学期に

学校長 小紫 達矢

2年ぶりの本格的な夏休みが終わりました。子どもたちは、この長い夏休みを充実した日々のできたのではないのでしょうか。9月1日に登校する子どもたちは少し見ない間に成長したように感じられました。

さて、兵庫県に8月20日に緊急事態宣言が発出され、9月12日まで兵庫県内の全域が対象となっています。緊急事態宣言真っ只中での2学期のスタートとなりました。テレビ等で、子どもたちの感染が増えているとか、子どもから親への感染する事例が出てきたとか、2学期が始まり子どもたちの活動が高まるのが心配だと…など、2学期が始まるにあたって気がかりな報道が増えてきました。三木市教育委員や学校でも今の状況を大変懸念しています。

そんな中、8月25日(水)国立感染症研究所と厚生労働省が、これまでの感染事例の調査から分かった学校などの教育現場での基本的な対策について公表しました。(NHK NEWS WEB より抜粋一部略・修正)

デルタ株のまん延に伴い

▽10代以下の感染者数が増加傾向にあるとしたうえで、

小学校では

▽教職員を発端とした比較的規模の大きなクラスターが複数発生している

▽児童の間での感染が大規模なクラスターになったケースは確認されていない

そして、保育所や幼稚園、大学までの学校、それに塾などでの対策として

▽全員の体調を確認して、体調不良時の欠席連絡や自宅待機時の行動管理を徹底すること

▽教職員は健康上の明確な理由などがなければワクチン接種を積極的に受けること

などが提案されました。

感染場所が分かったおよそ6600人について分析した結果、感染した場所は、6歳から12歳で、▽自宅は76.6%、▽学校は14.6%でした。

このところ子どもの感染が増えていますが、ことし4月以降の感染者全体のデータを年齢層別に分析したところ、ワクチンの効果で感染が減っている65歳以上をのぞくと、全体に占める18歳以下の割合はデルタ株が主流になった先月に至るまで大きく変わっていません。子どもが特に感染しやすくなったとは言えないとしています。



上記のことから、コロナ感染について、むやみに恐れるのではなく、正しく理解し正しく恐れることが改めて大切だと思いました。

子どもたちにとってその学年の2学期は一度きりです。確かな学びと豊かな経験を積み重ねていかなければなりません。子どもたちには、マスク着用、適切な手洗いなどをこれまで以上に徹底して指導して参ります。教職員も年齢や居住地によって違いがありますが、9月上旬にはほとんどが2回のワクチン接種を終えることとなります。引き続き換気の徹底なども行います。子どもたちにとって実りある2学期にするため、ご家庭におかれましても、ご家族それぞれの感染予防、子どもたちの日々の健康観察など、何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。